

宇部市花壇コンクール事業方針（素案） 令和8年 月

宇部市都市政策部公園緑地課

「花壇コンクール」は、令和8年の秋で第130回開催を迎え、「緑と花と彫刻のまち宇部」を象徴する市内随一の市民参加型イベントとなりました。

その一方で、高齢化を伴う人口減少や気候変動、社会情勢の変化など、今後も花壇コンクールを続けるうえで様々な課題が生じています。

そこで、「時代の変化に対応し、今後も市民の皆様が、やりがいを持って参加できる持続可能な「花壇コンクール」を実現する」ため、事業方針を策定しました。

1. 花壇コンクールの効果

色鮮やかな花を植えることでまちの景観がよくなり、潤いのある生活環境がもたらされるほか、花づくりを通じた人々の交流がうまれます。



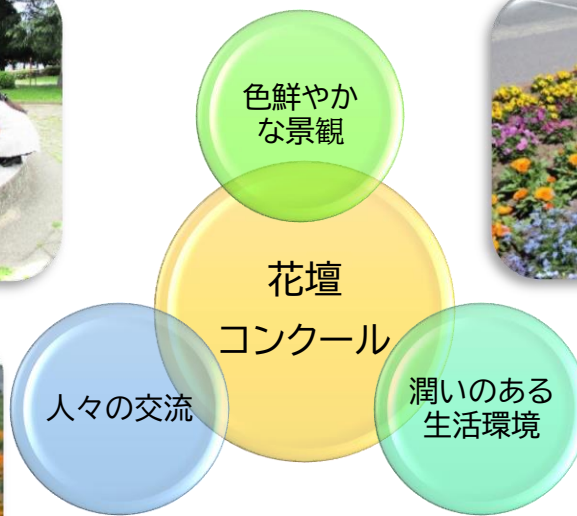
人々の交流



色鮮やかな景観



苗を生産しているほ場



潤いのある生活環境

2. 花壇コンクールを取り巻く状況

①参加者側の状況

担い手

- 参加者の減少や高齢化による作業の負荷が増している
- 学校花壇では、生徒児童の花管理への取組みが減少、教員の「働き方改革」が進む
- 戦後復興期に比べ、都市緑化へ関心度が低下

- ・花壇を管理する人が固定化している
- ・後を引き継いでくれる人はいない

「担い手が不足」

花壇管理

- 急速な温暖化によって「サルビア」が育ちにくい
- 配付される花苗ごとにあった管理が難しい
- 複数の品種が配付され、うまくデザインできない

- ・花がうまく育たない
- ・きれいな花壇にならない

「花の管理は難しい」

管理負担

- 配付苗以外にも苗の購入が必要（配付苗率：自由の部90%未満、基本の部90%以上）
- 追加の苗購入は実費負担となってしまう
- 肥料代やホース、道具も実費負担

- ・個人や少人数の負担には限りがある
- ・配付苗だけでは入賞が難しいかも・・・

「経済的な負担がある」

②主催者(市)の状況

市からの苗提供

- 市は配付苗の大部分を生産している(自家製苗)
- 苗生産の専門職員数が減少
- 苗生産体制の継続は困難
- 自家製苗の無料配付を全て購入苗に転換した場合、コストは大幅増加(倍増)
- 社会情勢の変化による物価変動。今後も生産コストは上昇

「新しい苗確保の手法」

〈参考〉
令和6年度 苗単価の比較(春・秋計)

生産者	配付方法	配付数	生産コスト (税込)	単価
宇部市	畑から掘り上げた苗を配付	41万本	10,728,911円	26.2円
購入苗	50穴のプラグ苗を配付	7万本	3,696,000円	52.8円

※宇部市分は資材費、消耗品費、人件費、種費を含む

対象花壇

- 一部、道路内など危険性がある
- 見る人が限られる花壇がある

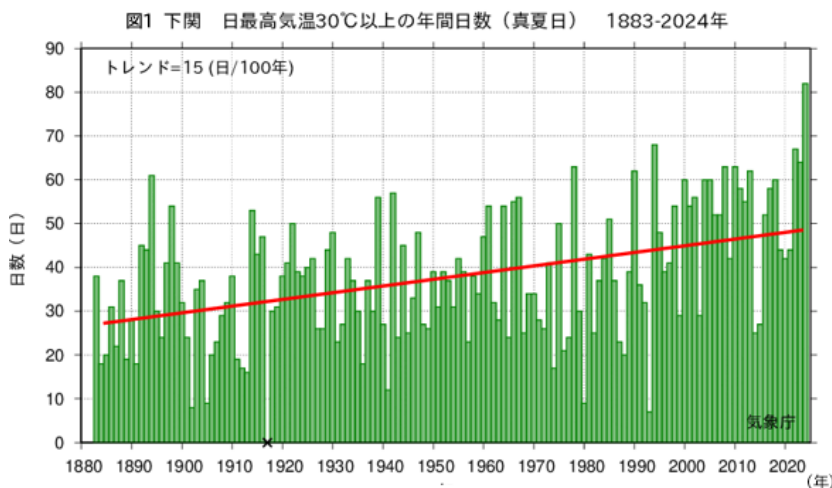
- ・参加者の安全確保
- ・公共性の高い花壇の推進

「公共事業に
則した花壇」

③自然環境の状況

- 近年は記録的な猛暑が観測され、熱中症リスク増加と花の育成への影響が深刻化

真夏日・熱帯夜の増加



山口県我真夏日・熱帯夜の日数は増加しており、将来は更なる増加が予想されています。

将来予測

(2076年～2095年の間に起きると予測)

4℃上昇シナリオ

山口県では
真夏日・熱帯夜ともに
約61日増加

下関の真夏日は10年あたり約2日増加

図1 出典:福岡管区気象台ホームページ
(<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/chikyu/report/observation.html>)

3. 花壇コンクールに関するアンケート調査 回答結果

■ 調査対象

令和6年度秋のコンクールに参加した
団体 168 団体
内訳 小・中・高等学校 41 団体
自治会 企業等 127 団体

■ 調査期間

令和7年3月5日発送 ~
令和7年3月21日締切

■ 調査方法

<アンケートの調査方法>

参加団体へアンケート用紙を郵送

<回収手段>

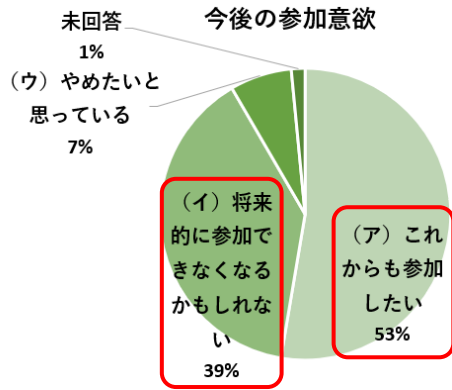
用紙の提出またはオンラインによる回答

■ 調査結果の回収状況

回答数 131

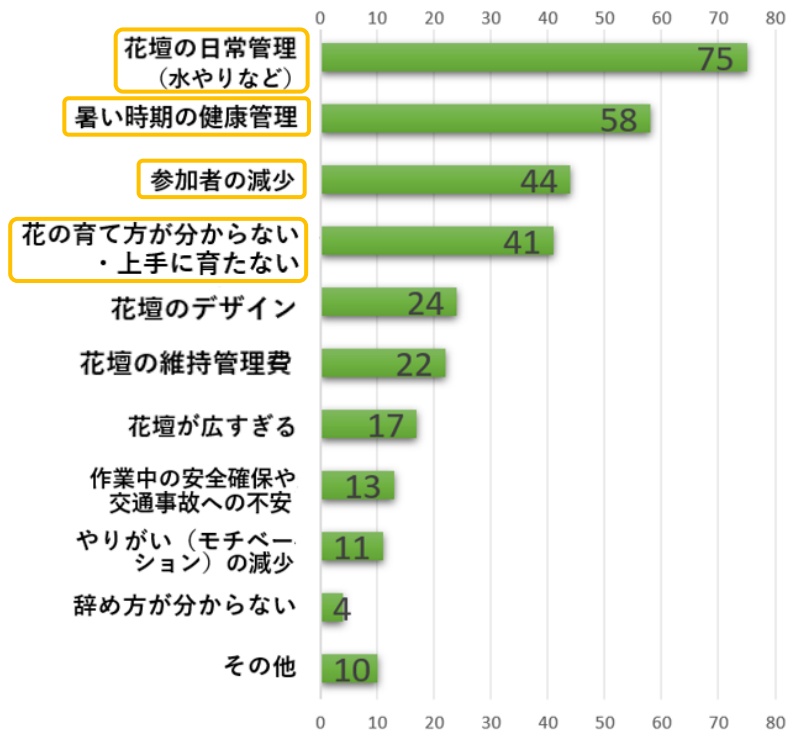
回答率 77.98%(131/168)

■魅力と効果、参加意欲

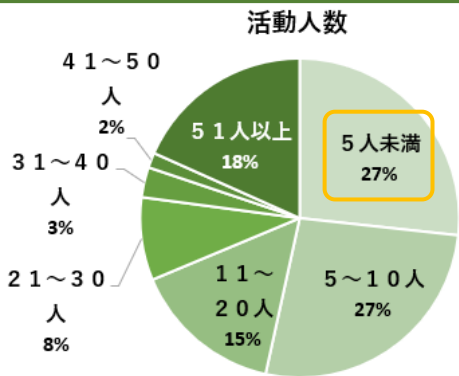


■管理負担

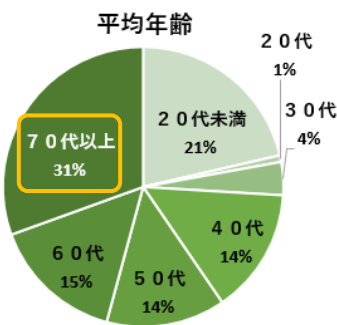
負担や課題となっていること



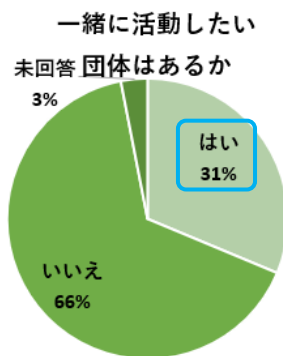
■担い手



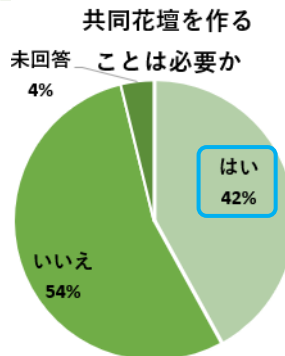
■平均年齢



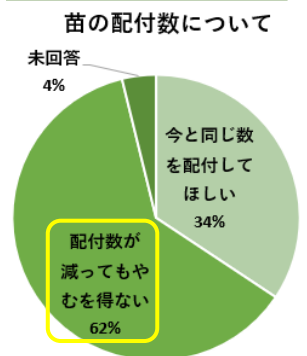
■マッチング(仲立ち)の意向



■共同花壇



■市からの苗提供



= アンケートまとめ =

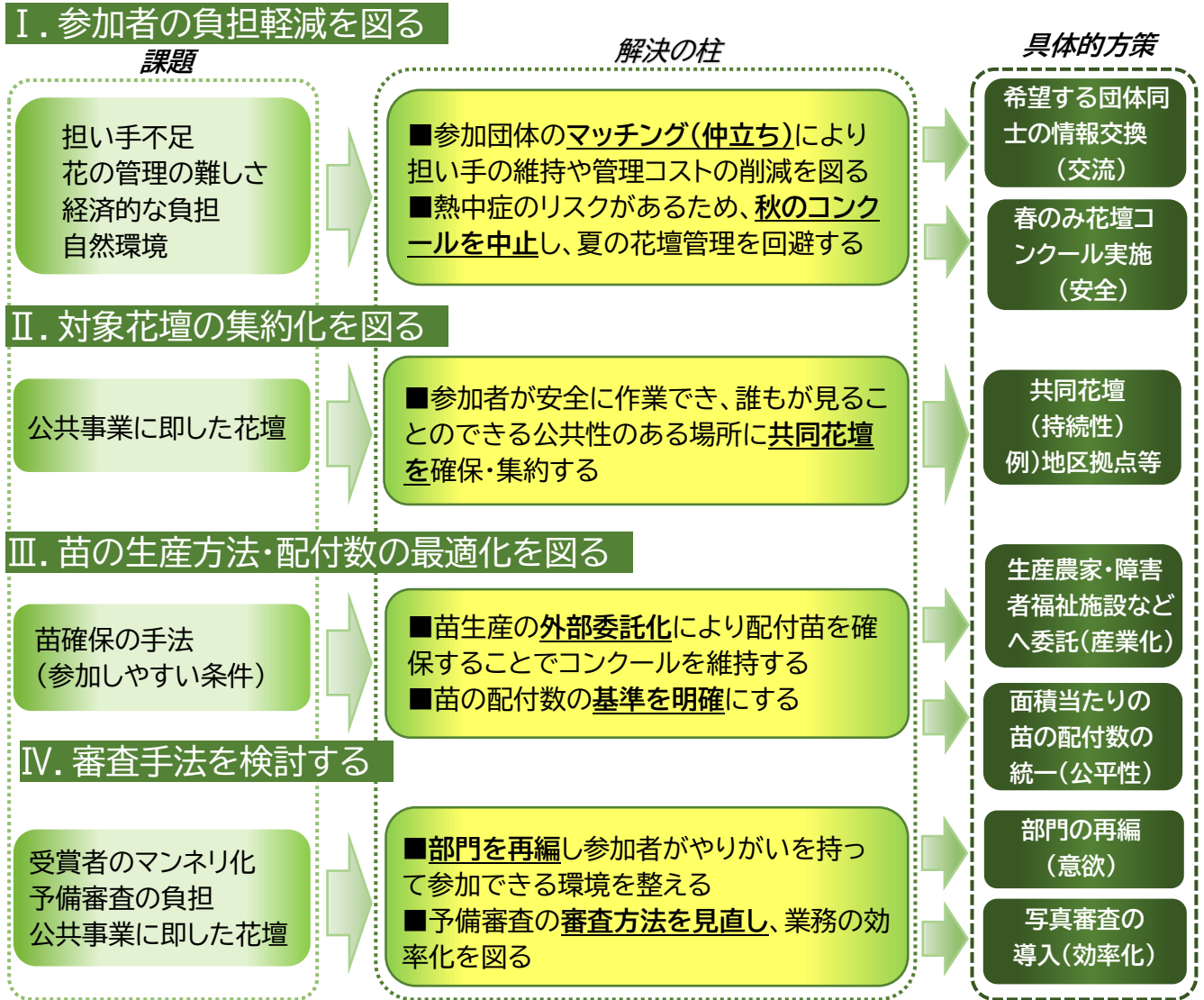
- 参加者の多くは、事業効果や魅力を感じており、
今後も参加を継続したい意向ある反面、継続への不安も多い
- 参加者が感じられている負担や課題は、
担い手の減少、花管理の難易度、暑い時期の健康管理が多い
- 参加者の負担軽減として、
他団体とのマッチング、花壇の集約化には一定数の理解はある
- 現在行っている苗の無料配付は、
参加意欲の維持のため配付数の減少には過半数の理解はある

4. 基本理念

時代の変化に応じたコンクール事業の最適化を進めるとともに、
コンクール参加者と市民の満足度の向上を図り、

「市民参加による花いっぱい運動」を次の世代へ継続する。

= 4つの基本方針 =



5. 今後のスケジュール

	R7年度		R8年度				R9年度				R10年			
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
花壇コンクール			●春		●秋		●春	●写真による予備審査実施			●春			
苗配付			●秋用		●春用			●春用					●春用	
苗生産	市直営の苗生産終了		●苗生産試験業務委託				●全ての苗について外部生産委託開始							
モデル事業の実施			●共同花壇整備の協議開始											
			●団体のマッチング(仲立ち)協議開始											